

### 第64回総会期第3回委員会報告

被災支援委員 小池 正造

9月9日常置委員会終了後に、さいたま市民会館おおみや会議室で支援委員会がもたれました。

最初に、秋山委員長より7月18日にもたれた教団対策本部会議についてなどの報告がなされました。台湾長老教会の支援活動について、アジア学院への献金呼びかけ、エマオへの100名を超えるボランティアの派遣がなされてきたことが報告された。また、アジア学院は、9月15日に新チャペルの献堂式を行います。教区から秋山議長、飯塚宣教部委員長が出席予定です。

会計より、教団教育部より、クリスマス献金乳幼児施設へのお見舞いとして教区に100万円が送金され、教区内被災乳幼児施設に均等に分けて送金したことが報告されました。教団教育部クリスマス献金を通して、支えてくださっている方々に感謝いたします。

小林委員より、8月、9月に、大宮教会、安行教会が食事ボランティアをしてくださることの報告がありました。感謝いたします。教団からの支援を受けて行われたスマイルキャンプ（茨城YMCA）が、盛会に終わったことが報告されました。

議事として、遅れていた水戸中央教会の工期を確認しました。11月着工を目指して準備しています。竣工は15年6月予定です。主に用いられる会堂が建てあげられます様に、事故無く完成されます様にお祈りください。

次回支援委員会は11月11日常置委員会後です。

### 仙台・エマオが展開する被災支援ボランティアへの参加者を募集します！

例年、9月の中旬を過ぎて学校などの夏休みが終わると、この時期から秋・冬にかけてボランティア・ワークの参加者が激減する傾向があります。現在は毎日数人のメンバーでワークに携わっているとのこと、どうか人の少ないこの時期に、ボランティアにご参加ください。初めての方、体力に自信のない方でも、大丈夫です。無理のないお働きをしていただきます。お申し込みをお待ちしています。また、食事調理のボランティアも現地でとても喜ばれています。こちらへの参加もよろしくお願ひします。

- ・エマオの活動日は火～土曜日です（日・月はお休みです）。
- ・10月12日から21日まではエマオ夏休みのため活動はありません。

その他、詳細については被災支援委員・小林までお気軽にお問い合わせください

(090 - 3529 - 5140)。

### 日本基督教団東日本大震災救援募金

\*現在の募金状況(2014.9.22現在)

¥ 895,554,931

「東日本大震災救援募金」

¥ 371,219,644

「東日本大震災海外献金プロジェクト」

## 「被災地の方々、そしてエマオとの出会い」

荒谷 出（共愛学園高校）

3年半前の震災に際して、共愛学園としては、全校に特別アピールをして、クリスマス特別献金を出来るだけ多く届けることくらいしか出来ませんでした。1年たった3月、いてもたってもいられない高校生たちが、自主的に被災地を訪れたいとの希望を表明し、東北教区のエマオ支援センターを紹介し、そこにお世話になって10数名の生徒たちが数回に分けて出かけていきました。

2年目の春が訪れた時、ようやく宗教部で主催しているアジア研究会という高校生のグループが、春休みを利用して9人の生徒と教員とでエマオを訪れました。そこで目にした光景、なかなか進まない復興の様子などをつぶさに眺めると同時に、エマオでの出会い、そしてなにより、エマオの活動から非常に大切なことを学ばされました。

仙台地区で被害の大きかった荒浜地区を訪れ、笹屋敷と呼ばれる地域にお住まいの方々のお家で畑仕事のお手伝いなどをしました。そこで高校生たちが強く感じたことは、人と人の出会いの中で、その方々に寄り添っていくことの大切さでした。春休みの経験から、何人かは夏休みを待って、再び自分でエマオにでかけていきました。3年目の春も6人の一行が再びエマオを訪問しています。

2回目の訪問に参加した閑野君の文章の一部を紹介します。

「わたしは前回震災2年目の春に津波の被害が大きかった荒浜へ行かせていただき、まだ数多くの傷跡が残っている場所を見たり、実際の津波が襲った時がどんな状況だったのかなどを聞いて、それを肌で感じ、驚きで頭はいっぱいでした。初めての体験や、起こったことのスケールの大きさに圧倒されて、まったく感情がコントロールできずに被災地を見て周り、ただただ『すごかった。』で終わりそうでした。しかし、この見たもの感じたものを、誰かに伝えたかった。

そして、今回2回目の荒浜を見ました。しかし、驚くことに、以前とほとんど変わらない風景が広がっていたのは、衝撃的でした。（略）あるワーカーさんが、泣きながら言ったそうです。『わたしは津波で瓦礫と化したごみが、ほんの数日前まで、誰かの大切な物だったかもしれないものを、ゴミとしてバンバン捨てているけど、本当にこれでいいのか・・・』。その言葉をきっかけに、誰のものか判断できる物は、その人に聞いて作業を進める方針をとってきたそうです。そこから、スローワークというエマオの支援活動が始まりました。（略）そして、思いはまだまだありますが、わたしが本当に重要だと思ったのは、今、あの震災から3年が経ち、3月11日にテレビや新聞が映す映像だけではなく、自分で復興がどのように進んでいるのかを現地で感じ、まったく変わっていない被災地の人々の暮らしがあることを、みんなに語っていくこと、これから何年も出向いて行ってみんなで復興を実現していくことだと感じました。」

本当に小さな歩みですが、継続して被災地の方々との繋がりを大切に持ち続けていくことができると感じています。東北教区エマオ支援センターの働きを、わたし達が支え続けていくことの大切さを強く感じています。

